

戦前期台湾における製糖工場と社宅街の配置図の復元に向けて

正会員 ○辻原 万規彦*
正会員 今村 仁美**製糖業 空中写真 南瀛国際人文社会科学研究中心
中央研究院 台南 宜蘭

1. はじめに

製糖業は、戦前期には「日本を代表する主力産業の一つであり、日本企業のアジア進出のプロトタイプともいえる海外展開を行った産業」¹⁾である。さらに戦後の1950年代から60年代にかけては台湾の主力産業であった。このように重要な産業でありながら、台湾側でも個々の事例を考慮しつつ製糖業を全体的に扱った研究は少ない。

筆者らは、日本統治期に台湾で建設された44カ所の製糖工場と社宅街を対象として、工場と社宅街の建設とその後が、周囲の街や集落に与えた影響を明らかにすることを目指して研究を進めてきた。具体的な課題は、①どこにどのようなものが建設されたか、②それによって周囲の環境がどのように時間的に変化したのか、である。

これまでに、2009年以来9回に亘って台湾を訪問し、まず製糖業に関する史料の所蔵状況を示し、同時に現地調査の結果も報告した²⁾。ただし、この段階では台湾で所蔵されている空中写真の使用は限定的であった。次に、台湾で所蔵されている空中写真の体系的な収集について報告し、旧烏日糖廠を例に空中写真利用の有用性について示した³⁾。同時に、台湾で所蔵されている旧版地図の収集について報告し、新営糖廠を例に旧版地図利用の有用性を示した³⁾。本報では、その後の調査に進展により、工場と社宅街の配置図の復元のための準備作業がほぼ終了したので、その内容を報告する。

2. 製糖工場と社宅街の配置図作成に向けての作業

台湾で現在も稼働している製糖工場は2カ所に限られるため、どこにどのようなものが建設されたかを明らかにするためには、工場と社宅街の、できれば複数の時期の配置図を復元する作業が必要である。具体的な作業としては、①工場や社宅街の位置の同定と現地調査、②空中写真の収集、③配置図を含めた一次資料の収集、④各種文献や論文などの網羅的な収集、が必要となる。

①は、既に閉鎖された工場が多く、建築物や区画が残っていない場合もあるためであり、前々報²⁾では全てを確定できてはなかった。②では、台湾では国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」のようなシステムが整備されておらず、前報³⁾の様に米国公文書館由来の空中写真も含めて体系的な収集を行った。③では、台湾での一次資料の散逸は激しく、同時代の写真を含む一次資料

の所蔵状況の概要は前々報²⁾で示したが、その後も継続して行っている。④は、日本での入手が困難で、デジタル化が進む台湾でも現地ではしか収集できないものも多い。

3. 旧大日本製糖宜蘭製糖所の位置の同定

戦中もしくは戦後直後の比較的早い時期に閉鎖された工場を中心に、工場内の各種建築物の配置や社宅街の配置や境界の確定が難しい場合がある。米国公文書館由来の空中写真、すなわち戦時中もしくは戦後直後の空中写真も含めて体系的に収集できた前報³⁾の段階でも、2012年9月の現地調査時の情報からだけでは、その位置を同定できなかったのが、旧大日本製糖宜蘭製糖所(宜蘭県五結郷二結村)であった。

旧大日本製糖宜蘭製糖所は、当初台南製糖宜蘭製糖所として1917(大正6)年1月に稼働した。その後、1928(昭和3)年1月に昭和製糖が継承し、一時は本社所在地であったが、1939(昭和14)年12月に大日本製糖に合併され、1943(昭和18)年2月に閉鎖された。さらに、1920(大正9)年1月には、第二工場が建設され、後に第一工場を休止させるなど、変遷が複雑な上に早期に閉鎖されたために、正確な情報を得ることが難しかった。

2012年9月の現地調査時点では、1949年(図1)と1969年(図2)に撮影された空中写真⁴⁾と1929(昭和4)年発行の「大日本職業別明細図 台湾地方 羅東街」⁵⁾から、現在の興中紙廠二結廠の敷地と比定していた(図3中のa)。しかし、2013年9月に訪問した宜蘭県史館で、同館のボランティア李英茂氏(昭和3年生、羅東在住)から、現在の薛長興工業の敷地(図3中のb)との情報が得られた。一方、興中紙廠二結廠の西側がその敷地であった旨の記述⁶⁾も確認したが、いずれも確証が得られなかった。

2014年9月の現地調査で、興中紙廠二結廠内の建築物の内部で戦前期より移動していない製紙機械が確認できたこと、昭和12年に撮影された『国策記録映画 南進台湾』⁷⁾で本社事務所と工場の映像を確認できたことから、改めて米国公文書館由来の空中写真(1945年5月31日撮影)⁴⁾を確認すると工場(図3と図4中のc)とヤード(図3と図4中のd)の位置が推測された。

2015年3月の現地調査では、戦前期に開削された水路との工場の位置関係がわかる写真と現況を比較し、さらに二結王公廟二結庄生活文化館ボランティアの林添源

氏（昭和2年生，両親が工場付近で甘蔗栽培に従事）の証言により，図3と図4中のcの位置が工場，dの位置がヤードと確定できた。

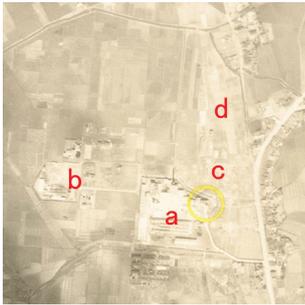


図1 1949年撮影空中写真

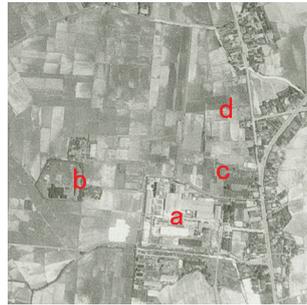


図2 1969年撮影空中写真



図3 福衛二号影像（2012）



図4 1945年撮影空中写真

4. 南瀛国際人文社会科学研究中心 南瀛研究資料館に所蔵される史料

台南市佳里区に位置する南瀛国際人文社会科学研究中心 南瀛研究資料館に所蔵される史料群は，旧明治製糖の本社が置かれていた総爺工場（戦後，麻豆糖廠）に所蔵されていた史料群の一部が移管されたものである。前々報²⁾の段階では，その目録³⁾の存在のみを指摘したが，2013年10月と2015年3月の合計4日間に亘って訪問することができ，その一部を閲覧，撮影することができた。

この史料群は，2002年から2005年に整理作業が行われ，名称，製作年代，種類（中文/日文件，中文/日書籍，中文/日雑誌など），摘要などが記された「資料現存状況記録表」を貼り付けた封筒に収められ，通し番号によれば4980件の史料が所蔵されている。しかし，「記録表」の内容が大まかすぎたり，誤りが多いため，それぞれの史料の現物を確認しなければ内容がわからないことが多かった。なお，整理作業終了後，ほとんどの史料が一度も利用されていなかった。

筆者らの閲覧では，旧麻豆糖廠だけではなく，周辺の台南地区のいくつかの製糖工場の史料が含まれていることが判明し，戦後期とは言え，台南地区の幾つかの工場や社宅街の配置図を確認できた。また，旧佳里糖廠と善化糖廠については，1950年代の農場も含めた工場に所属する建築物の間取り図がまとめられた史料も確認できた（図5，図6）。これは，北海道では日本甜菜製糖が作成

している「工務叢書」⁹⁾にあたるもので，工場と社宅や福利施設の全体像が把握できる貴重な史料である。

なお，台南以外の地区にも同様の史料が残っていたと考えられるが，今のところ現存は確認できていない。



図5 肅壠糖廠平面図表紙



図6 善化糖廠平面図一部

5. 二次資料の収集状況

台湾の学位論文は，修士論文も含めて台北市の国家図書館に所蔵され¹⁰⁾，近年はデジタル化されているものも多いが，原本のみの所蔵の場合もあり，一部は原本が未所蔵のものもある。これまでに2009年9月，2014年3月と9月，2015年3月に訪問して関係する論文を収集した。

雑誌などに掲載された論文は「期刊論文」と呼ばれ¹¹⁾，その多くは国立台湾図書館，国家図書館，中央研究院の各図書館で所蔵されており，2013年7月～10月，2014年3月と9月，2015年3月に，製糖業に関する論文，特に工場と社宅街の建設に関する論文を網羅的に収集した。

6. おわりに

戦前期台湾における44カ所の製糖工場と社宅街の配置図の復元に向けて継続している調査のうち，前報から新たに進捗した内容を報告した。

謝辞：空中写真の収集にあたっては，台湾中央研究院 人文社会科学研究中心地理資訊科学研究專題中心 研究助技師 廖汝銘氏に，興中紙廠二結廠の見学では同社廠長 黃正雄氏に，南瀛国際人文社会科学研究中心での史料閲覧では研究助理 溫勝智氏にお世話になった。本稿は，JSPS 科研費 20760430，23560769，26420647，23360273の助成による成果の一部である。

注・参考文献

- 1) 経営史学会編：日本経営史の基礎知識，有斐閣，2004.10
- 2) 辻原，今村，角：台湾における戦前期の製糖工場と社宅街の概要，日本建築学会九州支部研究報告，第52号，pp.553～556，2013.3
- 3) 辻原，今村：台湾における空中写真と旧版地図を用いた製糖工場と社宅街に関する調査，同上，第53号，pp.517～520，2014.3
- 4) 中央研究院 地理資訊科学研究專題中心 提供
- 5) 黃武達編著：日治時期臺灣都市發展地圖集，南天書局，2006.7
- 6) 五結鎮公所編：五結郷郷史 探尋舊地名，五結鎮公所，2002.2
- 7) 吳密察，井迎瑞編：片格動轉間的台灣顯影 國立臺灣歷史博物館修復館藏日治時期紀錄影片成果，國立臺灣歷史博物館，2008.6
- 8) 『台南県政府文化局委託研究計画執行報告 台南県麻豆総爺糖廠史料整理及研究』（執行単位：交通大学客家文化学院国際客家研究中心，2007.2）
- 9) 辻原，角，今村他：日本甜菜製糖旧本社社宅街の整備過程と現状，日本建築学会九州支部研究報告，第50号，pp.577～580，2011.3
- 10) 『国家図書館 台湾博碩士論文知識価値系統』で検索可能。
- 11) 『国家図書館 台湾期刊論文索引系統』で多くが検索可能。

* 熊本県立大学環境共生学部 教授・博士（工学）

** アトリエ イマージュ

* Prof., Prefectural University of Kumamoto, Dr. Eng.

** Atelier Image